

地元で学ぶ働く生きる

先日、ある新聞に興味深いコラムがあった。

T県の記事である。

その県のある高校の廊下に大学進学者の名前が掲示されているそうだ。

地元の国立大学合格者55名（注 記憶が定かでない 以下同）、隣県の国立大学合格者～名。

東京のT大学合格者は1名ということである。

しかし、従来から東京のT大学に10名ぐらい合格者を出す実力がある高校らしい。

理由は、保護者が地元や近県の大学進学を望んでいることがあるらしい。

この記事の読み方は様々あると思う。

私はこう考える。

近年、東京のT大学をめざす高校が多くなっている。良いことなのだろう。

しかし、地元の国立大学もすばらしい。立派な先生がいて、かつての2期校（もうこんな言葉を知っている方も少ないのでは・・・）で学び、ノーベル賞を受賞した日本人がたて続けにでている。

また、勉強ができ、都会へ出て、地元に戻らない若者たち。

そのつけが、地方の疲弊が生じてしまう。

地方でも、世界オンリーワンの企業も存在する。地元で学び、生きることも意味あることである。

地元の大学で学び、有名大学の大学院へ進学し、立派な業績を出す研究者もいる。

地元で学び働き生活する。そして次世代へつなぐ。重要な価値観だと思う。

情報は中央も地方もほぼ同じ。

飛行機・新幹線・夜行バスで短時間で都会へ行き、学ぶことも可能である。

新たな価値観を考え、実践し、伝えることをしなくてはならない。

それを行った地方が生き延びるのだろう。

100年後が楽しみだ。